

令和7年度 地域おこし協力隊実績報告書

令和8年 1月 24日



(1) 活動概要

北海道森町は森林面積が総面積の76%を占めており、森林に恵まれ豊富な資源を保有している。一方でその活用方法については課題があり、伐期を迎えてなお放置されている木々が多い。この課題に対し、地域おこし協力隊として木材の利用関心向上のための木育、またものづくりを通して木の魅力向上や若手の人材育成を行うための若年層担い手育成施設の運用、そして地域材PRのための新製品の開発に尽力する。

また、空き家問題に対して、民泊という手法にて利活用し町外大学生の宿泊、そしてインターン生の宿泊先として整備する。

(2) 実施した活動

◎若年層担い手育成施設の運用

- ・森高等学校にて木育の実施(全25回)
- ・さわら小学校にて木育の実施(全1回)
- ・鷲ノ木小学校にて木育の実施(全5回)
- ・施設内工具壁掛け収納を製作
- ・南渡島市町村会議にて視察対応
- ・なおみちカフェにて視察対応
- ・あおぞらデイサービスのこどもたちを対象にワークショップを主催
- ・町内小学生を対象にクリスマスワークショップを主催
- ・地域おこしインターンの受け入れ(北海道大学、札幌市立大学、武蔵野美術大学)

◎特産品開発の進捗状況

- ・地域ミズナラ洋酒樽の試作(10L、50L)
- ・道南スギゲーミングキーボードの制作

◎空き家活用の進捗状況

- ・空き家を活用し、民泊を開業

◎イベント開催等の記録

- ・道南スギカヌーイベントの主催
- ・もりっこまつりへの出展
- ・木育フェスタへの出展
- ・20周年事業「自律協生の未来づくりフォーラム」の開催

◎情報発信の効果

- ・北海道新聞に掲載(全3回)
- ・なおみちカフェへの出演

- ・地域おこし協力隊 NEWS を月一で刊行(2024年12月～、全13回)
- ・森中学校にて講演
- ・札幌市立大学にて講演

(3) 成果と課題

◎若年層担い手育成施設

出張木育活動として森町内の教育機関で全31回の木育を企画、準備、実施した。また、iroMori 施設内でのワークショップを主催し、町内小学生が参加した。場所の利便性から、出張イベントの開催に留まっていた点をバスの送迎を利用することで解決を図った。また、南渡島市町村会議にて視察対応を行い、施設や自身の活動について近隣市町村にPRした。



森高校にてニチレイ育みの森をリニューアル 鷲ノ木小学校にて卒業製作として本棚を制作

◎地域材洋酒樽

ナラ枯れ対策につながるよう地域ナラ材を利用した洋酒樽の試作を行った。地域おこしインターンも活用することで町外の大学生と試作樽の成型までの生産プロセスを森町内で完結できる仕組みを整えた。また並行して、林業関係者と連携をし、森林の分布調査や町内ミズナラ材の伐採も行った。



◎空き家利活用

新川町の空き家を民泊としてリニューアルした。年々課外学習やインターンで町外からの大学生流入が増加しており、来町した学生が寝泊まりできる場所として整備した。今まで本町で行っていたヤマウミベースの運営と合わせて一般社団法人 tomori を町内に設立し、若者（学生）が利用する場として位置付けるとともに、町民との交流を通じて知識や知恵が地域内で循環する仕組みを整えた。

◎森町地域おこし協力隊 NEWS

地域おこし協力隊の活動が見えないという課題に対して、月一での活動誌の刊行し、一年以上持続させた。町内事業者の方に協力を仰ぎ、今まで web 上でしか公開されていなかったが、町内施設の数カ所に掲載した。

(4) 総括

令和7年度は地域おこし協力隊を始めてから多岐に行ってきた活動を整理、取捨選択することで協力隊任期終了後に町内にて事業化できるように整えた。特に地域ミズナラ材洋酒樽づくりは地域木材の利活用にとどまらず、貴重な観光資源となる可能性を秘めている。協力隊任期終了後も樽づくりを継続し、森町に雇用をもたらす産業として確立できるよう尽力する。

長期的に行ってきた木育も学校授業やイベントで町内にかなり浸透した。木育が森町の文化となり、森町で育った痕跡となるように任期後も継続する。

継続的に伸びている大学生の流入についても経済効果だけでなく、地域に新しい発想や事業の発展に結びつく可能性が高い。「365日大学生のいる大学のない町」を目標に一般社団法人 tomori の事業も拡大し、大学も大学生も安心して、学びのある滞在となるように拠点やプログラムを整えてゆく。最終的には森町が大学生のフィールドワークの聖地のひとつとして大学生に認知してもらえるようにブランディングをつくっていく。